

## キャプテンズ・ミッション 平成 18 年度下期 CHQ 業務目標

### CHQ 業務全般

- 「CHQ 業務関連指針」を徹底し、各都道府県協会の積極的な活動をサポート、都道府県協会と協働して、日本サッカーの改革・発展を推進する。「CHQ Compliance」に基づき、特に、双方向のコミュニケーション・スピード・期限厳守・会計の透明性を重視する。
- 「JFA2005 年宣言」を多くの関係者と共有し、サッカーファミリーに浸透させ、JFA 事務局および都道府県協会における意識改革と具体的アクションの更なる推進・具現化を図る。組織機構改革と未登録チームの登録推進については、改革をスタートした都道府県協会をフォローし、更には、都道府県フットボールセンター整備推進事業や事業規模拡大等の新たなテーマも推進する。次年度以降の都道府県協会の事務局体制・各種支援制度へのサポートや補助金について、検討・策定する。
- 全国を積極的に巡回し、「キャプテンズ・ミッション」の進化を視野に入れ、地域 / 都道府県協会を中心に強力に推進する。国内に留まらず国際的な活動も積極的に行い、JFA が 2015 年には世界のトップ 10 に仲間入りできる様、様々な挑戦を行いながら日本サッカーの普及と強化に努める。

### M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進 ~JFA メンバー200 万人構想に向けて~

- JFA 内の各部署と連携し、全体的な業務推進体制を改善・構築する。
- 登録者への全体メリット / ベーシックサービスに関するコンセンサスを導き、カテゴリー毎の個別メリットの検討・充実に図り、未着手のカテゴリーを含めた各カテゴリーの登録制度を構築・推進する。
- 「JFA メンバースサイト」を各カテゴリー間に跨って横断的に整備・活用し、登録者に対する積極的な情報提供を引き続き行うとともに、登録意義 / メリットや登録料の活用方法等の明確化・積極的な PR に努める。

### M 2:施設の確保・活用

- 施設委員会(事業部)・記念事業推進委員会・他のミッション等と連携し、プロジェクトでの取り組みを中心に、施設リーフレット / ガイドブックの作成・都道府県フットボールセンター整備推進事業の実施等、全国での施設の確保および活用に向けた具体策の検討・実施を進める。
- 都道府県協会の活動支援・事例紹介・意見把握等を引き続き行い、施設関連団体等との連携も図る。

### M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

- 「モデル FA」の活動を中心に、全国レベルで「JFA キッズプログラム」の様々な活動を強力に推進する。
- 各都道府県においては、将来に向けた継続的な取り組みとして、キッズを中心に様々な取り組みと連動させ、地域に根差した活動を更に定着させる。技術委員会・Jリーグアカデミー・4 種関連との更なる連携に加え、他スポーツ競技団体や教育団体・自治体・省庁等にも積極的に交流を図り、協働する。
- 2008 年度以降の全国展開の手法や具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、各都道府県の実情を踏まえて具体的な展開内容を検討・策定する。

### M 4:中学生年代の活性化

- 事業部・技術部等と連携しながら、「トライアル FA 制度」の対象 FA を中心に、中学生年代における諸課題の解決・改善の具体策の実施・フォローアップに取り組み、都道府県協会との更なる情報共有に努める。
- 文部科学省・中体連等関係各所との積極的情報交換・連携を行い、更に具体的な取り組みを進める。

### M 5:エリート養成システムの確立

- 「リード FA」の活動を中心に、具体的実施プログラム・タレント発掘 / 養成活動・指導者の養成・保護者への啓発活動等を推進する。
- 取り組み意義の理解促進に向け、都道府県協会を中心に積極的に展開し、技術委員会・Jリーグアカデミーとの連携や他スポーツ競技団体・教育団体・自治体等、広く世間にアピールする。
- 2008 年度以降の全国展開の手法や具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、各都道府県の実情を踏まえて具体的な展開内容を検討・策定する。

**M 6:女子サッカーの活性化 ~競技人口の拡大~**

- 競技人口の拡大に向け、女子チームを紹介するサイトの充実を図り、「トライアル FA」の取り組みを中心に様々な活動をサポートする。女子委員会と連携し、都道府県協会・都道府県協会女子委員会等関係各所とのコミュニケーションを取りながら、組織体制の充実等を視野に入れた取り組みを行う。
- 2008 年度以降の「トライアル FA 制度」の支援策を検討・策定する。

**M 7:フットサルの普及推進**

- 「トライアル FA」の活動やファミリーフットサルフェスティバルの開催を通じて、各都道府県での課題解決に向けて、様々な事例を全国に積極的に展開し、フットサルの普及促進を図る。
- FIFA の登録や移籍に関する規定を検証し、登録制度の内容整理および具体的な改革案策定を検討する。フットサル委員会と連携し、日本体育施設協会等と協働、施設や関連団体への提供メリットを検討する。
- 2008 年度以降の「トライアル FA 制度」の支援策を検討・策定する。

**M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実**

- 「2・3 種リーグ改革プロジェクト」を中心に、CHQ・事業部・技術部等の各種施策とリンクし、普及・強化の両面でのリーグ戦の更なる浸透・意識向上および各種リーグ戦の整理・過密日程解消を全国的に推進する。
- 「JFA 試合運営ガイドブック」・「競技ガイドライン」を適宜改訂した上で更なる活用策を検討するとともに、全国大会の横断的な検証・改善にも取り組む。

**M 9:地域 / 都道府県協会の活性化**

- 双方向コミュニケーションを常に心がけ、各種会議 / イベント等に参加し、各都道府県協会の積極的な活動をサポートする。
- 都道府県協会の法人化・常勤事務局体制の整備・会計の透明化(収支状況の分析を含む)・事業規模拡大を更に推進する。組織機構改革と未登録チームの登録推進では、都道府県の活動状況・課題等の実態把握や活動支援を行う。
- 「チャレンジ FA 制度」については、対象 FA の活動をフォローアップし、好事例の展開・制度の充実に加え、2007 年度以降の制度内容および 2008 年度以降の支援策自体を検討・策定する。
- 「CHQ 関連業務指針」を都道府県協会と共有し、47 都道府県協会ミーティングでの課題・対応方針・実施事項と併せ、JFA の運営に反映させる。

**M10:中長期展望に立った方針策定と提言**

- 「JFA2005 年宣言」について、多くの関係者と共有し、より多くのサッカーファミリーに更に浸透させる。JFA においては、ワールドカップの経験からの課題抽出および事務局員の意識調査結果のフィードバック等を通じて、「アクションプラン 2015」「業務プラン 2008」を一人一人が常に意識し、日常の業務に積極的に取り組める様努める。また、人事研修プログラム・業務遂行管理・業務に対する価値観の策定検討等、具体的なアプローチを行うとともに、「業務プラン 2010」の策定にも着手する。都道府県協会に対しては、好事例を展開し、「JFA2005 年宣言」や「キャプテンズ・ミッション」を踏まえた独自の目標設定や具体的アクション等(PDCA サイクル)を引き続き推進する。
- 常に中長期展望に立った広い視野を持って日本サッカー界の動向を見据え、既存の業務内容の検証や取り組むべき新規事業・施策、特に日本サッカー界全体の事業規模拡大に向けての具体的施策を検討した。
- 「CHQ フューチャープロジェクト」では、地域 / 都道府県協会の活性化の観点から、「JFA2005 年宣言」の具現化・各種支援制度の継続計画・都道府県協会の事業規模拡大・施設の確保・活用(指定管理者制度の活用)等の具体策について議論する。
- シニア年代については「トライアル FA 制度」を中心に活性化を図る。

以上